

桑の実・よしくろぼ (下司町)

昔は、どこの家にも子供が沢山いました。兄弟の多い所では一軒に十人以上もいたので、年上の子供は、年下の子供のめんどろを見ました。そして、子守は子供の仕事でした。

学校から帰ると、着物を着替え、ねんね(赤ん坊)をおんぶして田んぼで働いているお母さんの所へ、お乳を飲ませに行きました。

田んぼのくろ(田畑のあぜ)では、桑の実が紫色に色づいて一ぱいになっていました。桑の実は、はじめは赤い色をしています。熟してくると、濃い紫色になって甘すっぱくおいしいおやつです。昔の子供達がそれを見逃すことはありません。「つばめ(桑の実)うまさうになったな。食べてこい。」

と、ささいな合つと子守をしながら、どの子も、ど

の子も取っては食べ、取っては食べ、手も口も紫色になっても食べました。

「おい おめえの唇、紫色になったぞ。」

「ほう言う、おめえこそ紫色になったぞ。」

「あははは………。うめえなあー。」

「うん。うめえなあー。」

この調子ですから、家近くの遠い田んぼでもつらいとは思いませんでした。





堤防に行けば、よしくろぼ(葦の若芽)が沢山の黒い所で口の回りにいかめしい鬚を書いたり、目の回りを黒く塗ったりして、女の子をおどし、みんな元気に跳びはねて遊びました。

でも、よしくろぼのあまりない時は、黒い穂の先の先まで食べました。

これが春のおやつでしたから。